

平成26年度事務事業評価シート					取組みコード	13312
区分	事務事業	担当課	住民課	作成日	平成26年5月19日	
事業名	町内循環バス運行事業費	開始年度	平成7年度	予算科目	2.1.1.10.3	

1. 事業の概要

総合計画での位置づけ			
部	第1部 自然と調和した快適なまちづくり	章	第3章 総合的な交通体系の整備
節	第3節 公共交通の充実	基本施策	1 バス路線の確保
取組みの基本方向 (2)町内循環バスの利便性の向上をはかります。			
根拠法令等 道路運送法			
目的 (誰・何を対象に、何のために)	交通不便地域を中心とした生活交通の確保と路線バスとの乗り継ぎの利便性を図り、町民の移動手段の向上を図る		
内容・方法 (何を行っているのか)	町内循環バスを、土日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)を除く平日に、3ルート、11便運行している。 ※循環バスは、交通不便地域を中心とした生活交通の確保と路線バスとの乗り継ぎの利便性を考慮し、H20.10.1～H23.6.30までの再編実証運行を経て、平成23年度の途中(H23.7.1)から現行ルートでの本格運行に移行した。(ルートの再編は、企画政策課が主となり実施) 1.愛川・高峰ルート:1日6便 2.中津西南部ルート:1日5便 3.中津東部・小沢ルート:1日5便 ※バスの運行は、愛川町内において道路運送法に基づく運行許可を受けた路線バス事業者である神奈川中央交通㈱に委託している。		

2. 指標(事業の成果・活動内容等を数字で表します)

本事業が属する総合計画の節の成果指標		指標名		平成21年度	平成28年度		
		住民の満足度『公共交通の充実』について「満足」と感じる住民の割合		21.7 %	37.0 %		
(A)総合計画の節の目標を達成するため本事業に求められる成果		町内循環バスの利便性を認識してもらい、実際に利用してもらうこと。					
(A)の成果をあげられているか測るための指標(成果指標)	増減	指標の説明	項目	基準年度(H23年度)	平成24年度	平成25年度	平成26年度
1日あたりの循環バス乗車人数	増	年度により、循環バスの年間運行日数が異なるため、公正に年度比較したいことから、年間乗車人数を年間運行日数で割った、1日あたりの乗車人数を指標とした。	計画値		96人/日	112人/日	112人/日
			実績値	95人/日	111人/日	109人/日	
			達成度※自動計算		115.6	97.3	0.0
(B)成果指標の目標を達成するため本事業において町が行う活動		町内循環バスの運行情報等の周知					
(B)の活動状況を知るための指標(活動指標)	増減	指標の説明	項目		平成24年度	平成25年度	平成26年度
循環バス路線案内パンフレット配布数	減	町ホームページ等でも循環バスの運行情報の周知に努めているが、数値として把握しにくいため、路線案内パンフレットの配布数を指標とした。 循環バスの周知が行き届き、配布数が徐々に減っていくことが望ましいものと考えた。	計画値		1,000部	1,000部	1,000部
			実績値		980部	950部	
			達成度※自動計算		102.0	105.3	

※ 増減欄は、指標の値について、増加が望ましい場合に「増」、減少が望ましい場合に「減」を記入する。

3. 事業費の推移と財源内訳

3. 事業費の推移と財源内訳			(E) 平均人件費(円/年)	8,300,000		
年 度			基準年度(決算) (H23年度)	平成24年度(決算)	平成25年度(決算見込)	平成26年度(予算)
(A) 事業費(円)			29,638,333	28,789,701	28,318,672	28,481,000
(B) 概算職員数(人)			0.084	0.084	0.084	0.084
(C) = (B) × (E) 人件費(円) ※自動計算			697,200	697,200	697,200	697,200
(D) = (A) + (C) 総事業費(円) ※自動計算			30,335,533	29,486,901	29,015,872	29,178,200
単位当たりコスト※自動計算			319,321.4	265,647.8	266,200.7	
財 源 内 訳 (円)	特 定 財 源	国庫支出金				
		県支出金				
		地方債				
		その他				
	一般財源※自動計算		30,335,533	29,486,901	29,015,872	29,178,200

4. 事業の項目別評価(分析)

項 目	判定基準	判定 ※一部自動判定	評価 ※自動判定
妥当性 (公費を投入して実施することが妥当な事業か)	法令等で義務付けられた事業である。		B
	民間サービスで同様の事業は実施されていない。市場原理に委ねることができない。		
	国や県において同類種の事業が実施されていない。	○	
	事業開始時から事業目的や町民のニーズの変化がない。		
	事業・サービスの提供時間帯及び場所は公平に提供されている。		
	受益に応じた負担は適正である。	○	
	事業の実施による効果が不特定多数の人に広く及ぶ性質である。	○	
	町民の日常生活に必要な不可欠な事業である。	○	
上記のいずれにも当てはまらない。			
有効性 (基準年と比較して成果が上がっているか)	成果指標について平成25年度の目標を達成している	×	B
	基準年度と比較して成果が向上している	○	
効率性 (なるべく費用をかけずに成果を上げているか)	基準年度と比較して費用の縮減ができている (費用の縮減率が成果の向上率以上か)	費用減、成果アップ	A
有用性 (施策の成果指標の目標達成に貢献しているか)	総合計画の節の目標達成のための本事業の効果	直接的	A
	総合計画の節内での本事業の優先順位	高い	
総合評価 ※自動判定		良好に実施できている	

5. 特記事項

循環バスのルートは、交通不便地域を中心に設定されており、基本的にルートの沿線や周辺住民が利用しているものと考えられる。そのため、日常的に利用している方のライフスタイルの変化(通院・通学先等の変更、引越し)によっては、別の交通手段に変更されてしまうことがあるので、一日あたりの乗車人数を成果指標としたものの、恒常的に増加させることは難しいところもある。しかし、採算性が高いと見込まれる、路線バスと同じルートを走らせることは、本事業の本質から外れてしまうものと考えられる。
【受益者負担】乗車運賃:1回乗車につき100円(6歳未満は無料)

6. 自己評価(担当課)

評価結果	☒ 現状維持	☐ 拡 充	☐ 改 善	☐ 縮 小	☐ 再 構 築	☐ 廃 止
理由	高齢化に伴い、今後、マイカーを運転しない人が増加すると見込まれ、交通不便地域の交通手段を引き続き確保するため。					
今後の方向性	住民ニーズを把握し、乗車人数の推移を見ながら、より一層周知・啓発に努める。					

7. 1次評価(庁内行政評価委員会)

評価結果	☒ 現状維持	☐ 拡充	☐ 改善	☐ 縮小	☐ 再構築	☐ 廃止
今後の方向性に係る意見等	所管課の方向性のとおり					

8. 2次評価(外部評価:行政改革推進委員会)

評価結果	☐ 現状維持	☐ 拡充	☐ 改善	☐ 縮小	☐ 再構築	☐ 廃止
今後の方向性に係る意見等						

9. 2次評価(実施のない場合は1次評価)を踏まえた対応案(担当課)

現状のまま引き続き事業を実施する。

10. 町の最終方針(行政改革推進本部会議)

評価結果	☒ 現状維持	☐ 拡 充	☐ 改 善	☐ 縮 小	☐ 再 構 築	☐ 廃 止
理由・改善方針	現状のまま引き続き事業を実施する。					